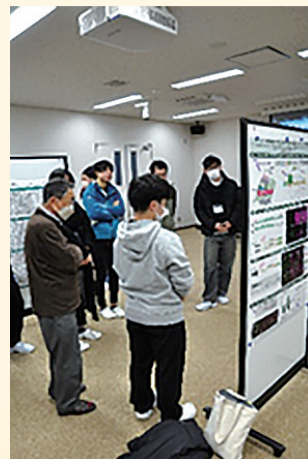


融合研究の主なコラボレーション活動

2024年度 全領域合同研究交流会

1. 交流会開催について

昨年度は、計8回（前期4回、後期4回）の交流会を開催いたしました。対面での開催は4回、オンラインでの開催は4回となりました。オンラインでの開催は、もともとコロナ禍に対面で集まることが難しかったため始まった形式ですが、遠方で研究を行なっている等の理由で対面での参加が難しい学生のために継続して実施しました。対面、オンラインに関わらず、どの回も40人程度の学生が参加しており、異分野交流の場として積極的に活用されていきました。交流会では、例年通り学生を中心に自身の研究について口頭発表とポスター発表を行なっていただきました。昨年度は口頭発表では24名の学生に、ポスター発表では52名の学生と16名の先生方にご協力いただきました。



2. 口頭発表について

口頭発表は各回3人の発表者を募集し行いました。発表時間は例年通り質疑応答を含めて20分としました。発表者の方には、できるだけ専門用語を使わずに初見の人でも分かるような説明を心がけることと、留学生も増えてきているのでスライド中に英語の説明も適宜入れることをお願いいたしました。また、スライドについては発表前に先生方に添削をしていただき、第三者目線でわかりづらいところなどを指摘していただきました。結果として1つの発表に対して様々な分野から2～3の質問が来ており、活発に議論が行われていました。一方で英語の説明に関しては全体的に記載が少なく、留学生からの質問もあまりみられなかったことから改善していく必要があると考えられます。昨年度も、発表時間に収まりきらなかった質問などについては、クラウドサービス「Slido」を利用しました。しかし昨年度の「Slido」利用回数は1回のみであり、今後利用するかは議論の余地がありそうです。

3. ポスター発表について

ポスター発表は、各回5～7人の学生と0～3人の先生方を募集し行いました。発表時間は例年通り質疑応答を含めて20分×3回転としました。オンラインのポスター発表では、多くの発表者がポスターではなくスライドを用意し口頭発表と同じような形式で発表していました。これは、オンラインでは対面のポスター発表のような発言の気軽さや議論の交わしやすさがなかったため、結局口頭発表形式の方が発表しやすいなどの理由が考えられました。一方で対面のポスター発表ではそれぞれのブースで議論が盛り上がっている様子が見られ口頭発表では見られない積極的な交流が行われていました。



4. これからの交流会に向けて

昨年度の交流会運営の中で一番苦心したことは、発表者への依頼でした。研究が発表できる段階に至っていない等の理由で断られることが多く、毎回異なる分野から発表者を集めてくるのは至難の業でした。そこで、研究成果ではなく研究分野の面白さや研究手法の紹介を重視してほしいということを周知いたしました。しかしなかなか発表者が集まらなかったのが現状です。交流会を年8回行うとして、毎回口頭発表を3人、ポスター発表を7人にしていただくとすると年間80人の学生に協力していただく必要が

あります。学際高等研究教育院生は全体で110人なのでほとんどの学生が1年に1回は発表することになります。交流会は異分野の研究者と交流できる貴重な場です。このような機会を最大限生かしていくためにも皆様の積極的な発表をよろしくお願いいたします。

末筆ながら、昨年度の運営にご尽力いただいた諸先生方、運営委員ならびに参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

学際高等研究教育院 博士研究教育院生
2024年度後期 交流会運営委員
生命・環境領域 農学研究科 細沼 航平